

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

川内聖二

実施月日	令和5年2月13日(月)		
実施時間	13時から17時		
調査先	茨城県境町役場4階会議室および遠隔監視センター		
調査所在	茨城県猿島郡境町391-1(役場住所)		
調査の目的	境町が進める地方創生(自動運転バス運行について)		
調査先担当者	境町町 橋本正裕 氏		
内容・結果等	<p>【目的】 嬉野市では、未来技術地域実装事業の一つとして自動運転モビリティ導入の計画を掲げられており、自動運転バスを導入し運行を行っている茨城県堺町に視察を行った。</p> <p>【内容】 境町では、高齢者や交通弱者の移動手段として自動運転バスを2020年11月に第1ルート、2021年8月に第2ルートを運行された。距離的には6~8kmの距離を20キロ程のスピードでの運行のため、当時は渋滞が発生し無理な追い越しがあり、解消するためにバス停の位置の見直しを行いスムーズな運行ができるように改善された。車両は自動運転というが車内には交差点等でバスをコントロールするオペレーターが乗車し、外からは遠隔監視センターで運行の監視がされている。開始から無事故で運行されている。乗車料金は無料で事業費は、ふるさと応援寄付金等を活用し運行されている。</p> <p>【まとめ感想】 昨年の9月に西九州新幹線が開業し、これまで無かった新幹線駅から嬉野温泉街までの新しい二次交通として導入の研究がされている。必要性としては大きく観光資源としての魅力も感じるが、運行するにあたり市民の理解と協力のもとで運行しなければ事故を誘発する要因にもなる。実証実験での運行の財源は国の10/10の補助を活用し運行されると思うが、ルートに関しては十分にメーカーと協議し、事故が起きないように安全管理には十分に力を注ぎ事業を行うよう考える。今後の事業の展開に関しては注視していきたい。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	旅費・宿泊費	祐徳旅行株式会社(宿泊パック)	41,350
	旅費(都内~境町)	東京モノレール、JR他	7,320
	合 計		48,670

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。